

生えたばかりの永久歯は構造的に未成熟なため幼若永久歯といわれています。そして、この幼若永久歯の頃が、最も虫歯になりやすい時期なのです。

歯は生えてからも唾液中のリン酸やカルシウムを取り込むことにより、お口の中で時間をかけて成熟していきます。生えた直後の歯の表面を電子顕微鏡で見ると大きな穴がたくさん開いていて、まるで月面のクレーターのような状態の歯は表面が粗く、汚れも付きやすく落としにくいという特徴があります。また、酸に対しても十分な抵抗力がありません。生えたばかりの未熟な歯が、成熟した歯になるのに5年程かかります。つまり、生えてから5年位は虫歯になりやすい注意が必要な時期なのです。

歯の表面のエナメル質の主成分はハイドロキシアパタイトという結晶成分ですが、これがフッ素と結合するとフルオロアパタイトになり、酸に対しての抵抗力が増すため、結果虫歯になりにくくなると言われています。そして幼若永久歯は成熟した永久歯よりもフッ素と結合しやすいこともわかっています。つまり、歯が生えてから5年以内のフッ素の応

用は虫歯予防に非常に効果的とされているのです。

現在、秋田県内では多くの小中学校、幼稚園、保育所でフッ素洗口が実施されております。これは、6歳臼歯が生える頃から親知らず以外の永久歯が生え揃う時期をねらった効果的な虫歯の予防法です。このフッ素洗口が実施されてから、以前と比べ虫歯が激減しているというデータも出ています。

幼若永久歯は汚れが付きやすいので、丁寧なブラッシングが必要です。また、歯垢に覆われている状態でフッ素を応用しても、肝心の歯までフッ素が到達しないので、フッ素洗口をする場合でもブラッシングをしっかりと行うことは重要です。



幼若永久歯
歯が生えてから5年程は未熟な虫歯になりやすい状態です